

と く  
徳

ほ う  
朋

## 地獄と極楽

かねこ だいえい  
金子 大栄

かねこ だいえい

1881-1976

新潟県出身。真宗大谷派講師。近代教学の基礎を構築し、大谷派を代表する僧侶。

仏教の思想からいえば地獄はつくらなければなりません。例えば刑務所<sup>けいむしょ</sup>はあるかないかと同じで、犯罪者があるからできたのであります。地獄は自分でつくるのですから、つくりないうにさえすれば、ご心配はいりません。ただ、つくりないようにしなさいということです。源信僧都<sup>げんしんそうず</sup>の『往生要集』<sup>おうじょうようしゅう</sup>に地獄の事が書いてあります。その中に罪人と鬼<sup>もんどう</sup>の間答が出てきます。罪人は「なぜ、私をこんなひどい目にあわすのだ」という。すると鬼は「私はなにも知らぬ。<sup>なんじ</sup>あなたは自分の業<sup>ごう</sup>で私のこの身さえ作ったのではないか」とあります。罪人というのは鬼を作って、作った鬼に苦しめられているのが地獄であります。身を焼く火は自分自身の業火<sup>ごうか</sup>であります。在る地獄なら逃げることもできるが、作る地獄は逃げる事はできません。地獄<sup>じごくいちじょう</sup>一定はすみかであるということは、いずれの行<sup>ぎょう</sup>もおよび難<sup>がた</sup>き身においてあるのです。だから地獄はつくりなにかぎりはないのであります。困<sup>こま</sup>ったことには地獄よりほかにつくっておらない身であります。そこへ気が付き、反省させられるのであります。

これに反して、浄土は実にあるものであります。しかし、浄土<sup>じつど</sup>の実在を知るにはこの世<sup>よ</sup>は虚在であることを知らねばなりません。この世も、浄土も実在<sup>じつざい</sup>であると、同じ次元において、同じ

性格において考える事は無理であります。日本の隣りに中国があると同じように、この世の存在と浄土の存在を並べて考える事はできません。そのように考えた浄土でないのだという事ははっきりしておきたいと思います。少なくともこの世は万事みなもってまことあることなしというふう実感するものにとっては、真実にある、実在の世界こそ、浄土であると思うのであります。

(『誤解された宗教』)



実は地獄はもともとどこにもないのですが、私が作り出して縛られ苦しめられる世界です。実は私たちが今もがきながら一生懸命に生きている世界こそがまさに地獄です。地獄を作り生きているという自覚に立って初めて、浄土（ありのまま）に気付く事が出来ます。そこにおいて迷いながらも生きていく方向性が開かれていきます。(哲弘 拝)



この「徳朋」は仏教を抛り所としている方々の言葉に直に触れ、仏教を頭で一生懸命に理解するのではなく、この身で感じる事を願いとして副住職が毎月作成しています。